

国語科における授業実践例

- ① 学年・単元名 全学年
- ② 活用したツール ロイロノート
- ③ 実践内容 読むこと領域での活用方法

〈単元導入〉

- ・本文に出てくるものについて、理解が深まるように画像を見せる。
- ・デジタル教科書の著者からのメッセージなどを流す。
- ・デジタル教科書の資料動画や画像を見せる。

〈前時の振り返り〉

前時の板書や、キーワードなどを画像ファイルやロイロノートに入れておき、本時の導入場面で教師がテレビに表示して説明に使ったり、一人読みで個人的に参照したりする。

〈展開〉

1. 一人読み

一人読みを終えた段階で、ノート画像を撮影し、ロイロノートで共有する。その後、ロイロノートの共有機能を使って、他の子のノートを見て学ぶ。参考になった考えや自分の考えと同じ方向性で、自分の考えが確かになる等、役立つ意見を書いた児童の名前と内容を簡単にメモする。

(考えを広げる・確かにする)

2. 全体交流後の3人トーク

深めたい場面で、3人での交流「3人トーク」を仕組む。3人で話し合った内容をロイロノートの付箋機能を使って、端的にまとめ、ロイロノートの提出箱に提出する。教室のテレビに1チームずつ表示して、発表者がそれを示しながら3人で話し合った内容を発表する。

〈3人の役割〉 ①司会者 ②ロイロノート記録者 ③発表者

3. 終末(活用)

本時学習したことについて応用したものをロイロノートで作成しておき、児童が操作する。例えば、3年生 国語「こまを楽しむ」の終末では、テーマの「遊びを説明する順序」について、ロイロノートに遊びの種類を入れておき、説明の順序に並び替える。

④成果と課題(実践するときの留意点など)

○ノート画像の共有によって、自分の考えの広がりにつながると共に、どこに着目して読むとよいのか手掛かりになった。また、仲間のノートのまとめ方でよいものを取り入れる姿もあった。

○3人トークで、役割を毎時間ローテーションすることで、それぞれの立場で必要とされる力も付いた。

(例: 司会者=話を整理しながら聞いて、深まるよう問い返していく

記録者=話し合いの結果を、言葉を精選して端的にまとめる

発表者=話し合いの内容を分かりやすくまとめて話す)

△3人トークでのロイロノートのまとめ方は、形式や色などがある程度統一するとよい。